

(3) 社会関係とインターネット利用

インターネットの利用と非行行動へのコミットメントとの関連性について、利用時間量の短い者の方が相対的にコミットメント率が高いという傾向を先に見た。また、インターネットを通じてポルノ画像やアダルト情報、麻薬・銃などの裏情報に接触している者の非行コミットメント率も、相対的に高かった。

一方、社会関係に関しては、親の期待を負担に感じている程度の強い者、家族よりも友人関係を重視する者、及び、体育系のサークルに所属している者は、それ以外の者よりも、それぞれ非行へのコミットメント率が高かった。

それでは、上記のような社会関係の特徴を持つ者は、インターネットの利用時間量が短く、ポルノ画像やアダルト情報、麻薬・銃などの裏情報に接触する可能性が大きいのであろうか。もしそうであれば、インターネットの好ましからざる影響は、一定の社会関係と一定の接触実態を持った者の間で、生じる可能性が大きいといえることができるであろう。例えば、親の期待を負担に感じている者がインターネットのアダルト情報に好んでアクセスしているとしたら、その相乗作用によって非行へのコミットメント傾向は一層強まるであろうことが予想されることになる。

そこで、「親の期待に対する負担感」、「心の安らぎの場」及び「サークル参加」の3つの質問と、「インターネット利用時間量」、「ポルノ画像の閲覧経験」、及び「アダルト情報ないし麻薬・銃などの裏情報へのアクセス習慣」の3問とをクロス集計することによって、インターネットの相乗的影響の可能性を探ってみた。

結果を一覧表に示したのが図表 57 である。

(図表 59) インターネットの相乗的影響の可能性

		サンプル数	1日のインターネット利用時間			ポルノ映画閲覧経験			アダルト情報・裏情報閲覧者
			1時間以上	1時間未満	利用していない	見たことがある	知っていたが見たことはない	知らない	
親の期待	負担を感じる	117	29.3	47.4	23.3	38.2	55.1	5.6	13.5
	たまに負担を感じる	316	27.6	57.5	14.9	37.4	58.8	3.1	9.2
	負担に感じない	231	23.6	55.0	21.0	42.8	51.7	4.4	12.2
安らぎの場	家族と一緒に	112	24.8	60.6	14.7	29.0	64.5	5.5	3.2
	友人と一緒に	343	26.8	53.5	19.7	36.3	58.2	4.4	11.4
サークル参加	文化系サークル	115	28.9	59.6	10.5	40.6	52.5	5.9	11.9
	体育系サークル	175	18.0	57.0	24.4	40.3	53.5	5.4	10.9
	参加していない	315	32.5	50.8	16.7	39.0	57.9	1.9	11.2

※数字はパーセンテージ

この表によると、ここで取り上げた特性に関する限り、社会関係とインターネット利用との間に、非行行動へのコミットメントを相乗的に促進するような関連性が一貫してみられるとはいえない。例えば、親の期待を負担に感じる程度が強い者ほどインターネット利用の時間量が短いとはいえないし、負担感の強い者よりもかえって負担を感じない者の方が、ポルノ画像閲覧経験者の率が高くなっている。また、サークル参加の如何とポルノ画像閲覧経験やアダルト・麻薬情報嗜好との間には相関がみられない。わずかに、安らぎの場を友人に求める者の方が家族に求める者よりも、ポルノ画像の閲覧経験者及びアダルト・麻薬裏情報の嗜好者の比率が高いこと、また、体育系サークルの所属者の方が文化系サークル所属者やサークル非参加者に比べて、インターネット利用時間量の長い者の割合が少なく、非利用者の割合が大きいという結果だけが、非行行動へのコミットメントへの相乗的促進効果を示唆している。

どのような社会関係のうちにある青少年が、どのようなインターネット利用習慣を持った場合に、非行や犯罪行動にコミットしやすい傾向を示すかという点については、インターネットと非行・犯罪との間に短絡的な因果関係を安易に措定するあやまちを避けるためにも、更に詳細な調査研究が必要である。